

英国でPYOをしませんか？ Pick Your Own

子供の頃の記憶がいつも確かとは限りませんが、幼い頃に住んでいたハンプシャーの魅力的な町、[Alresford](#)での思い出は、素晴らしいものばかりです。

太陽がさんさんと輝くなか、Sun Hillという名前の学校に通いました。花が咲き、木造骨組みで淡い色合いのエレガントなジョージ王朝様式の家が並ぶ可愛いメインストリートは、私の思い出のなかでは完璧。ただ、多少美化されているかも…。また、池にいたダックやガチョウは今、私が見るより、本当に大きくて、ずうずうしかったでしょうか。彼らにポテトチップスをあげたとき、親指をかまれビックリした記憶はさだか？

大聖堂の町ウィンチェスターの近くに位置するAlresfordは、クレソン栽培の中心地として有名です。クレソンをご存知ですか？クレソンは葉物の野菜で、英国ではサラダやサンドイッチに使われます。特別美味しいものではありませんが、見た目はとても魅力的で栄養価が高いとされています。Alresfordには、‘クレソン・フェスティバル’や、有名かつ万能な’superfood’、クレソンにちなんだ蒸気鉄道‘クレソン・ライン’まで存在します。再び、記憶がおぼろげですが、学校の先生に連れられて男の子と女の子で手をつなぎ、クラスでカントリーサイドの川岸までクレソン摘みに行ったような…。

私のクレソン摘みの曖昧な記憶はさておき、英国では、PYO(Picking your own fruit or vegetables: 野菜や果物を自分で摘み取ること)は、とても人気があり、各地で楽しむことができます。PYOをはじめとして、英国では、農家と小売業者間の隔たりを縮めながら、豊富な地方の産物を再発見する動きが盛んです。オーガニック食品の販売店は繁盛し、スーパーも、農作物の産地を明らかにする大切性を認識しはじめています。このような変化は、**home grown(地元産)**、**organically produced(有機生産)**、**freshly caught(とれたて)**といった、ゆたかな農作物を表現する言語を新たに生み出しました。

次回の英国旅行では、地方まで足を延ばして、PYOにチャレンジしてみても如何でしょうか。(PYO 参考情報 <http://www.pickyourownfarms.org.uk/index.php#listings>) 太陽がふりそそぐもと、新鮮な果物や野菜をバスケット一杯に収穫しながら午後を過ごすのは楽しいものです。日本人の皆さんはすでに、プレゼント選びの達人ではありますが、英国のお友達には、四角いかごに大盛りになった手摘みの地元産 完熟ストロベリーがオススメです。

英国雑誌‘[Country Life magazine](#)’でお気に入りのマーケットタウンのひとつに選ばれたAlresfordにはぜひ再訪して、現在の様子と思い出を比べてみたいと思っています。今でも、魅力的な町だと確信していますが、クレソン摘みが想像上の出来事だったかもしれないように、あまりにも幼かったのも、かなり記憶の糸をたどる必要があるかもしれません。